

STOP ! ROKKASHO

「六ヶ所核燃料再処理工場の本稼働に反対し、海に、空に放射能を流さないことを求める署名」協力への御礼と経過報告

2007年11月
ポラン広場東京

「六ヶ所核燃料再処理工場の本稼働に反対し、海に、空に放射能を流さないことを求める署名」に多くの方々にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

お寄せいただいた署名は、11月5日に『三陸の海を放射能から守る岩手の会』を通じて、国(経済産業省)に提出しました。署名活動は宅配会員から家族・友人・知人に、そのまた知人へと拡がり、当日の提出署名総数は92,387筆にのぼりました。重ねて御礼申し上げます。

「六ヶ所核燃料再処理工場の本稼働に反対し、海に、空に放射能を流さないことを求める」動きは、地元三陸の漁業協同組合単位での署名取り組みに広がっています。また、全国の若いサーファ－の間にも拡がりつつあります。

11月に予定されていた再処理工場の本格稼働は、ひとまず押し止められました。しかし、国・日本原燃は、機器のトラブルや被曝事故続発、耐震構造設計ミス発覚、中越沖地震による柏崎刈羽原発の被災事故を経ても、試験の中断も総点検もせずに、来年2月本格稼働に向けて試験運転を続けています。

ポラン広場東京 PODは、これからも安全で美味しい豊かな海と里と山の恵みを届け続けるため、東北地方の生産・製造者と共に、そして安全で美味しい食べ物を食べ続けたい、次の世代に残したいと願う方々と共に「六ヶ所核燃料再処理工場の本稼働に反対し、海に、空に放射能を流さないことを求める」活動に取り組みます。これからもどうぞよろしくお願い致します。

〔動かすな 危険！六ヶ所核燃料再処理工場の本稼働に反対する理由〕

使う当ての無いウランとプルトニウムを溜めこんでどうするの!?

六ヶ所核燃料再処理工場は、原発で使用済みの核燃料からウランとプルトニウムを回収して、燃料としてふたたび原発で利用するためのものと言われています。しかし、プルサーマルと呼ばれるこの計画は、原発よりさらに危険性が増すことが指摘され、反対の声が大きく、未だ実現していません。回収ウランについては、天然ウランと比べ汚染されており本格的利用計画すらありません。

一日で原発一年分の放射能が！

再処理工場が本稼働すると、一日で原発一年分の放射能が出ると言われ、排液は沖合 3km、深さ44mの放出口から、排気は150mの煙突から放出されます。海への放出には原発と違って放射能の濃度規制がありません。再処理工場を運転する日本原燃は、三陸の海の放射能放出について放出日の予告や海洋拡散状況、不都合なデータなどを公表しようとしていません。事業をつづければ、働く人を被曝させ、地域を放射能で汚染し、大事故が発生すれば地球規模の被害をもたらします。

試験運転でも事故多発！

2006年 3月の試験開始から 3ヶ月の間に11件もの機器のトラブルや被曝事故が発生しています。操業優先の日本原燃の姿勢は、「原発を止めたくない」ために多くの臨界事故や制御棒脱落事故を隠ぺいし続けてきた原発事業者とよく似ています(日本原燃の設置主体は電気事業連合会です)。昨秋以降事故の公開が不透明になってきており、公表されていない設計ミス、トラブルがまだまだある可能性があります。

耐震構造設計ミス発覚！しかも11年間隠蔽！

今春「六ヶ所村再処理工場で設計を担当した会社が、11年前に耐震設計の計算ミスに気付きながら、隠蔽していた。設計上想定する大地震が起きた場合、土台部分の強度不足で装置が転倒し、使用済み燃料等を傷つける恐れがある。」と報道されました。(2007年 4月18日読売新聞)六ヶ所核燃料再処理工場の近くには、「出土西方断層」という活断層も存在します。もしも直下型地震が起こったら...